

# 乙 貞

第23号 通巻第5号第3号  
1985年9月30日発行

守山市立埋蔵文化財センター  
TeL 0775-85-4397

〒524-02

守山市服部町2250番地

今年の夏の暑さは……表現できない程の暑さで、残暑も厳しい状況でした。9月も後半になって、ようやく秋らしくなり、センターのまわりでは稲刈りの真最中です。7月/日号でお知らせした調査だよりから以降も市内各地で発掘調査を実施しましたが、このニュースを含め乙貞をお送りします。

## ◎◎◎◎ 特別展のお知らせ ◎◎◎◎

文化・芸術の秋となりました。センターでは//月の文化財保護強調月間の協賛事業として//月に特別展を開催します。内容は下記の通りです。

### 記

- 1 テーマ 服部遺跡の調査をふりかえて  
—センター開館五周年記念—
- 2 期 間 昭和60年//月3日～同//月24日
- 3 行 事 / 講演会 //月23日(日) 14:00～  
講師 水野正好氏(奈良大学教授)
- 2 土器づくり //月//日(日) 9:30～
- 3 映画会 河内平野を掘る(期間中毎日)他予定

以上を予定しています。今年は服部遺跡の発掘調査がはじまってから10年目にあたります。守山市の歴史だけでなく、県や全国の歴史にも、その研究の上で大きな影響を与えたこの大遺跡の調査をふりかえてみようとするのが目的です。日々刻々記憶から消えつつある偉大な遺跡を、調査の開始から現在に至るまでの種々の出来事や、成果を展示したいと思います。

詳細は市広報やポスターなどでお知らせします。

##### 発掘調査だより #####

7月以降の調査の概略をお知らせします。

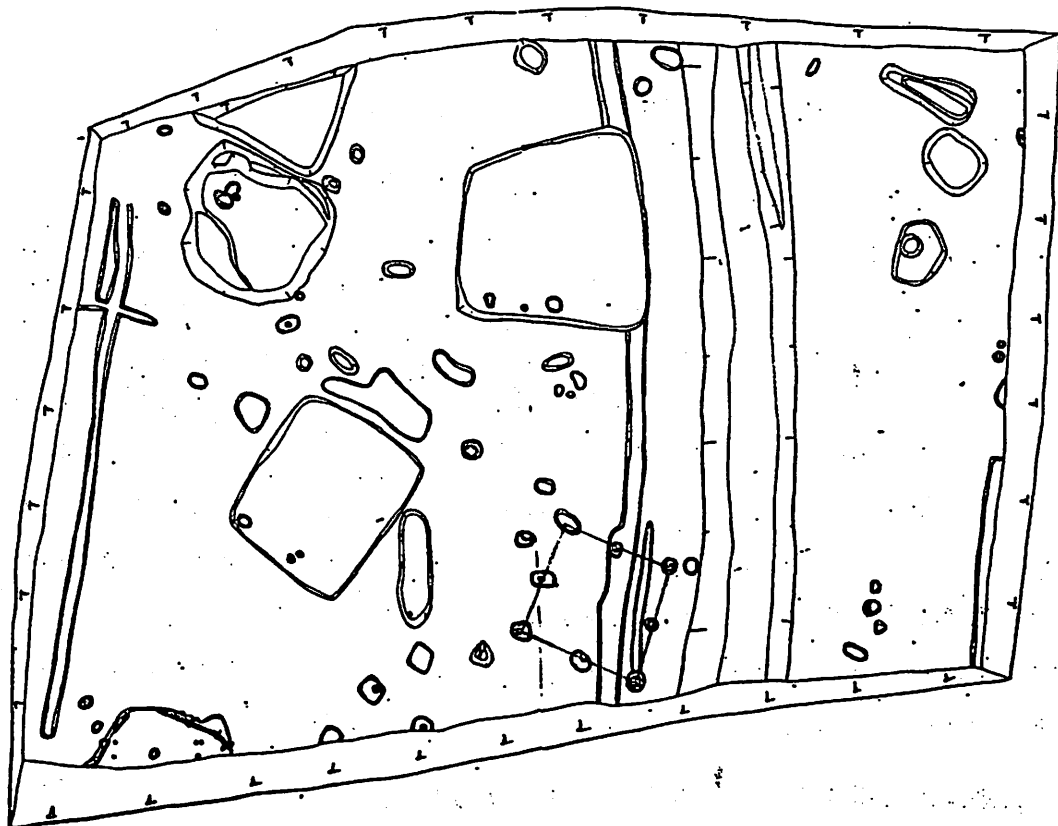
◎杉江遺跡 (守山川改修関連)

調査は終了直前です。乙貞22号でお知らせした内容とあまり変わらず、上流部の調査でも集落跡の検出はうすく、東に進む程希薄になるようです。この杉江遺跡は杉江や山賀の前身である可能性が高く、県が実施している調査とともに貴重な成果を取めています。

◎益須寺遺跡

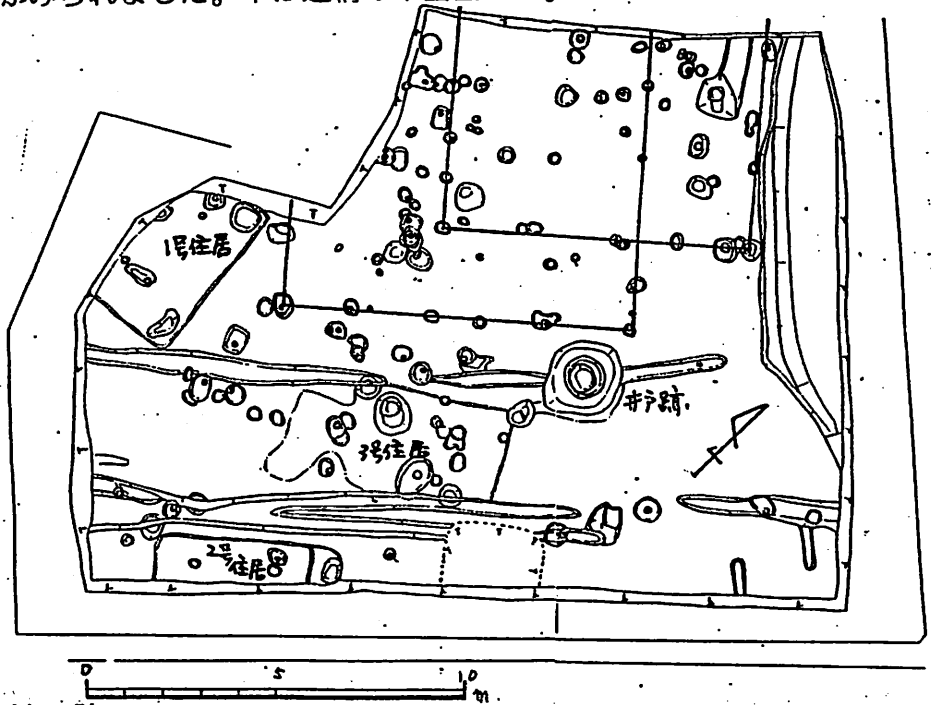
吉身町地先で、県道栗東一大津線と東海道線の交差する少し北側でレストラン建築に先立って発掘調査を実施した。このあたりは、持統天皇に関わりのある益須寺の所在地で従来から注目されているところである。この敷地内では数年前に調査を実施しており掘立柱建物を検出しており、今回も堅穴状遺構4基、溝土坑、ピット、掘立柱建物を検出した。

下図は検出した遺構の平面図です。



### ◎吉身北遺跡

国鉄守山駅西口の岩崎興業ビルの南隣りで、ビル建築に先立つ発掘調査を実施しました。このあたりは吉身北遺跡の中心地で、最近ではセルバ守山用地で調査しており弥生時代から古墳時代にかけての住居を検出している。調査では予想に違わず、古墳時代中期から後期の堅穴住居3、奈良時代の掘立柱建物3、雨落ち溝、江戸時代以降の井戸跡が検出されました。出土遺物では滑石製のブレスレットがみられました。下は遺構の平面図です。



### ◎伊勢遺跡 (ハズ)

伊勢町の自治会館の近くで個人住宅の建築に先立って調査を実施しました。約200mの土地で、調査の結果、弥生時代後期の溝跡を検出しました。

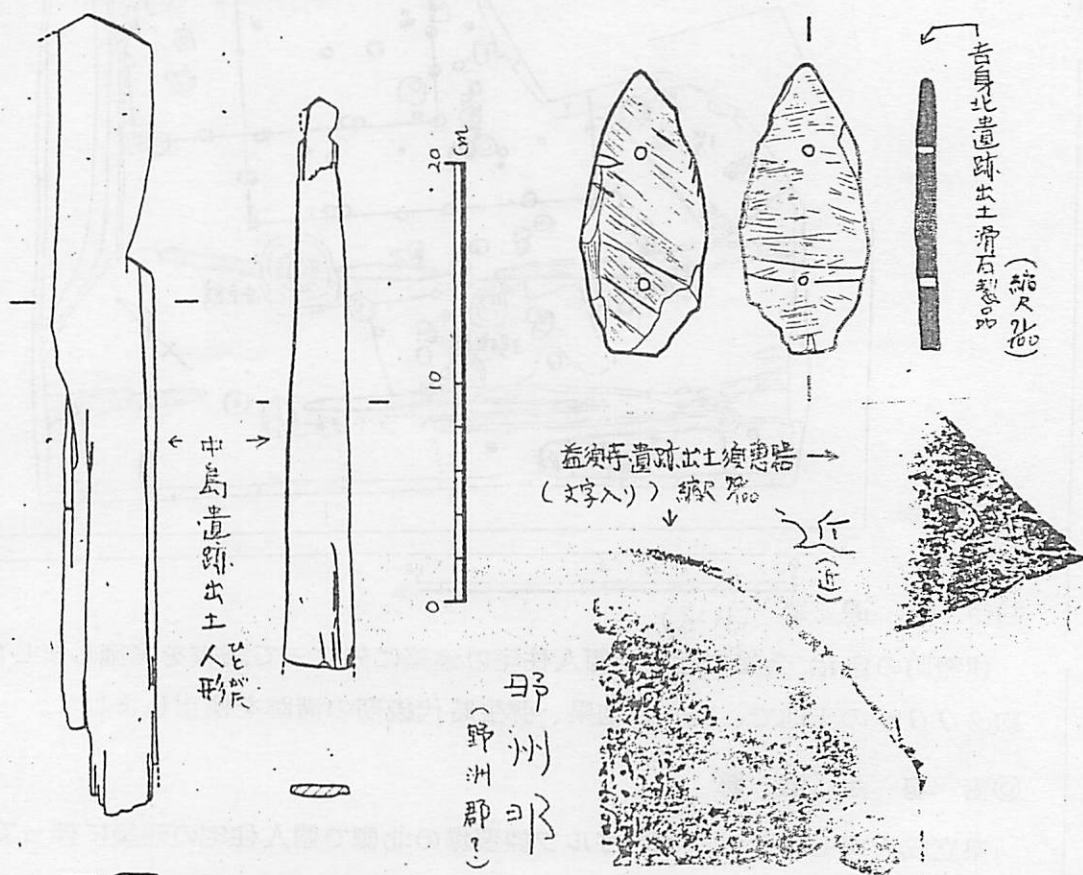
### ◎吉身西遺跡

県立成人病センター西側のゴルフ練習場の北側で個人住宅の建築に伴って発掘調査を実施しました。このあたりは、吉身西遺跡の西辺部にあたり、先の調査でも堅穴住居が検出されています。調査の結果堅穴住居2、溝跡を確認した。住居は古墳時代前期、溝跡は同中期ごろで、溝跡は約1.5m間隔で並列して、畑作に関連する遺構ではないかと考えています。

※※※※※ センター開館5周年！！ ※※※※※

昭和55年11月3日に開館した当センターは今年11月で満五才となります。市内各地に所在する埋蔵文化財調査を通じて市内外の多くの方々と関わりを持って早や五年の歳月が経ちました。センターに足を運んで頂いた見学者の数も2万人を超えました。年4回の特別展も回を重ねるだけで文化財に対する理解の深化に貢献できたのか、どうか不安でなりません。今年は5周年という節目にあたり、職員一同、意識を新たに、展示や調査のたびに、より有意義な方法や内容を示したり、得られるようにがんばりたいと思っています。

皆様方のご協力と御指導をお願いいたします。



◎ 編集後記 ◎

9月7日に横江遺跡で現地説明会が行なわれ、相にくの天気にもかかわらず約百名の方がこられた。説明会の必要性を痛感しました。今秋は調査が目白押し。特別展も。報告書も。でも、がんばるしか無い……のかなあ？。(S 記)